

「図書館活用の基盤づくり」のための授業実践

福岡県 広川町立上広川小学校

基本データ

所在地	八女郡広川町大字水原 949
児童生徒数	185人
教職員数	17人
蔵書数	13,012冊
年間貸出冊数	14,628冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】計画的・組織的な運営・活用

【活動のねらい】

- 読みたい本をできるだけ早く見付ける方法を考え、ラベルを使った方法を判断し、自分に合った探し方を決めることができるようにする。
- 本を素早く見付けるための方法について、意欲的に話し合うことができるようにする。
- 「ブックストリート」と名付けられた多目的ホールから図書館へと続く通りの活用を勧め、いつでも誰でも、本を楽しむことができるようにする。

※以下に示す概要等は、第1学年のみ

取組・活動の概要

- 第1学年を対象に、学級活動「本の借り方・返し方を身に付けよう」を10月に実施。
- 事前の活動では、本には書名や著書名が書かれていることを確かめて理解し、本の書名に興味を持たせる。
- 本時の活動では、話合いを通してラベルの良さに気付き、その見方を理解した上で、自分に合った本の探し方を決められるようにする。
- 事後の活動では、1ヶ月に借りる冊数の目標を立てたり、おすすめ本カードをつくったりする。その後、「ブックストリート」での読書を促し、読書に親しむことができるようにする。

取組・活動の工夫や特徴

- 事前指導では、図書館を毎日利用する中で本にラベルが貼ってあることに気付いたり、疑問を抱いたりできるような声掛けを行う。
- 学校司書からのおすすめの本を書名で掲示し、興味を持てるようにする。
- 事後指導では、本時で学習したラベルの見方を掲示し、児童がいつでも目を向けられるようにするとともに、1週間の取組をチャレンジカードに記入し、教師や保護者からの賞賛を通して、図書館を利用したいという意欲を持つことができるようにする。

- 活動を推進するための体系表の整備、見直しを行う。

取組・活動の成果や今後の展望

- 本がラベルの文字の順に棚の端から並んでいることが分かり、ラベルを基にして自分の読みたい本を選び出すことができるようになった。
- 「ブックストリート」で読む人が増えるとともに、全校で本に親しむ人が増えた。



「本の借り方・返し方を身に付けよう」の様子



ブックストリート